

2018年度 いちかわTMOアドバンス修了発表



スマートウォッチによる介護イノベーション
～“スマートケアラー”とは～



<課題>



人手不足と言われる介護業界で、
質の高い介護を提供するために、
スマートウォッチをつかって、
介護にイノベーションを起こすこと。

<課題>

“スマートケアラー”とは



: 私の勤めている

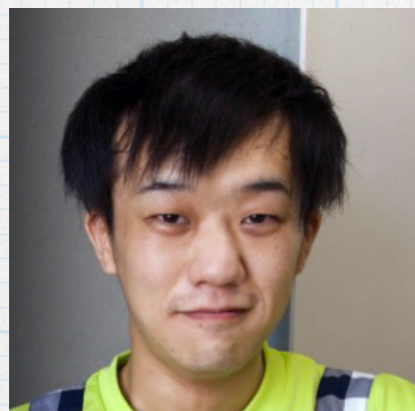
株式会社かいごデザインでは

「ICT機器を使いこなす、

新しい時代のヘルパー」

と定義しています。

<自己紹介>




恩田 僚之（おんだ ともゆき）

1991年生まれ 栃木県出身

 高校

宇都宮短期大学付属高校卒業

 大学

千葉商科大学商経学部経営学科卒業

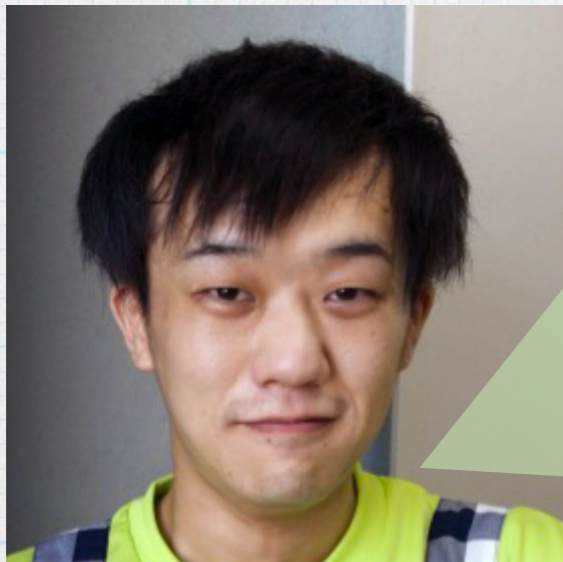
 就職

株式会社「かいごデザイン」入社

介護の世界へ

<きっかけ>

将来自分の両親が介護を
必要としたときに、
自分で介護をしてあげたい！



そのために介護の知識や
スキルを学びたい！
利用者に寄り添う介護がしたい！



そんなとき
求人ポスターを
見かけました

有料老人ホーム ハッピーニューライフ市川真間の求人ポスター





正社員として働き始めました！

有料老人ホーム ハッピーニューライフ東船橋



株式会社かいごデザイン

< 実体験：1年間働いてみて >

ホームは、一般的な介護施設の約2倍の人員配置なのですが。。。

✓ 体力的にも大変な仕事だと思った。

✓ 最初は夜勤が大変だと思ったが、

それ以上に日中が忙しいと感じた。

✓ 介護の世界は介助そのものの以外に、

介護記録がとても沢山ある。



< なぜ記録が必要なのか？ >

1. サービス提供の**証明**

法的な証拠、施設や職員を守る意味も。

2. スタッフ間での**情報共有**

利用者の状態の把握、ホウレンソウ、ノウハウの蓄積。

3. 家族等への**情報提供**

家族、ケアマネ、行政機関が閲覧できる。



< 僕が驚いたこと >

つまり。。。

介護の現場で記録にないことは、
現場で何も起こっていないことと同じ。

「記録が全て」の世界。



< 介護記録の実際 >

どうしても

記録に時間が取られる

その結果



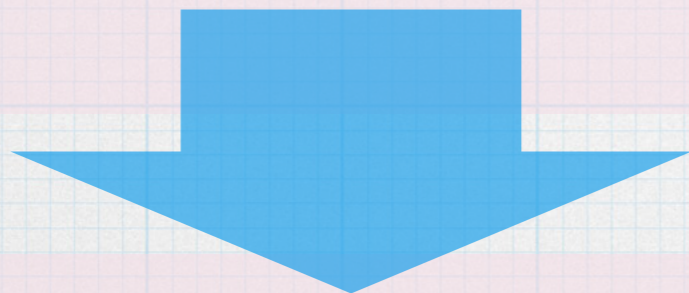
< 僕のある一日の活動の期録 >



記録と申し送り：合計115分（約2時間）

< 社内での取り組み >

すでに社内では、
介護記録のICT化を
進めていた。



自分も一緒に取り組みたい！と思った。

私の会社では・・・

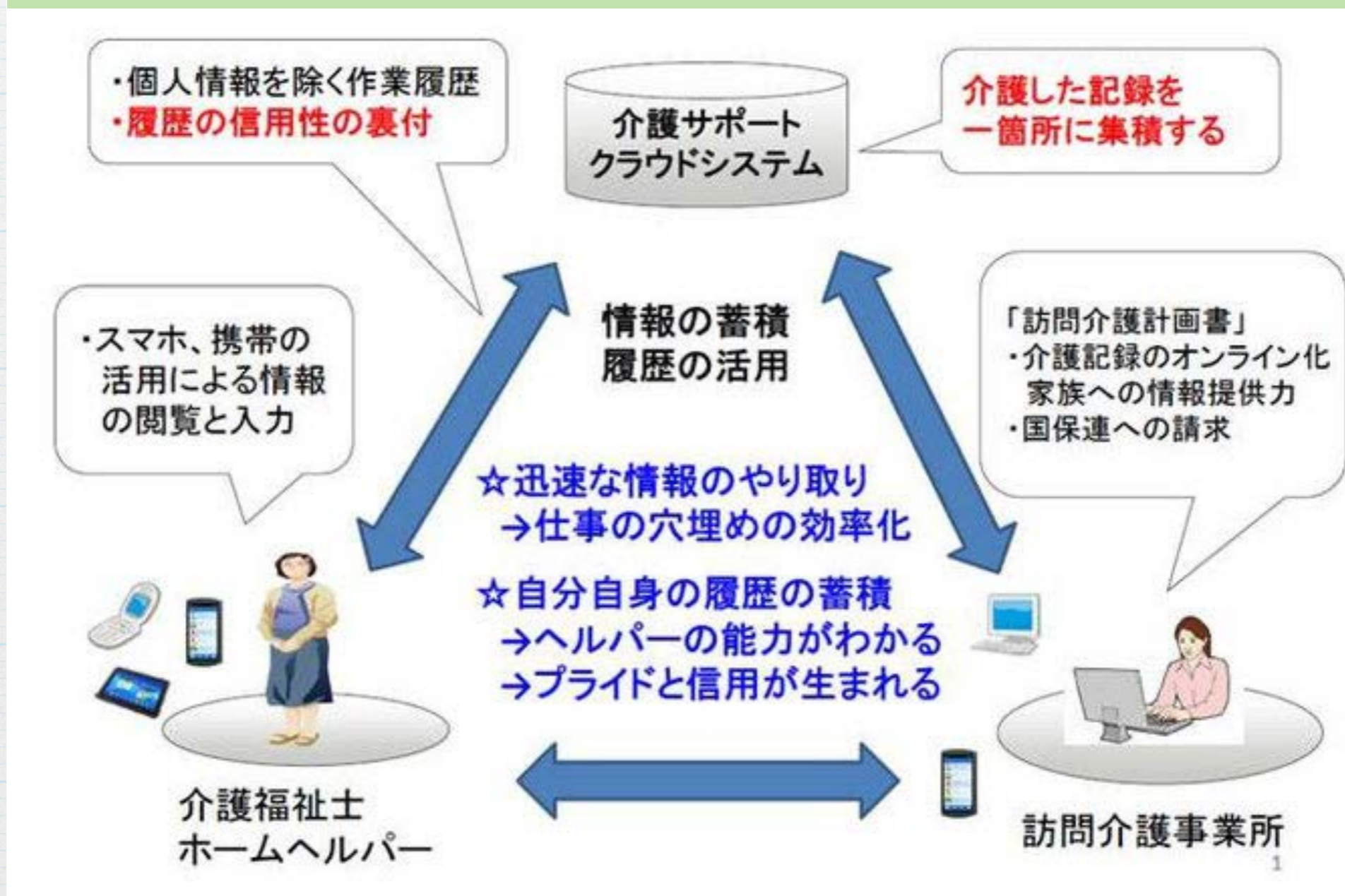


介護記録の時間が限りなく
ゼロになるような働き方を
目指している。



< キャリア介護システム >

クラウド上に、ヘルパーの介護記録を蓄積して、
キャリア育成にも役立つシステム



< キャリア介護研究会 >

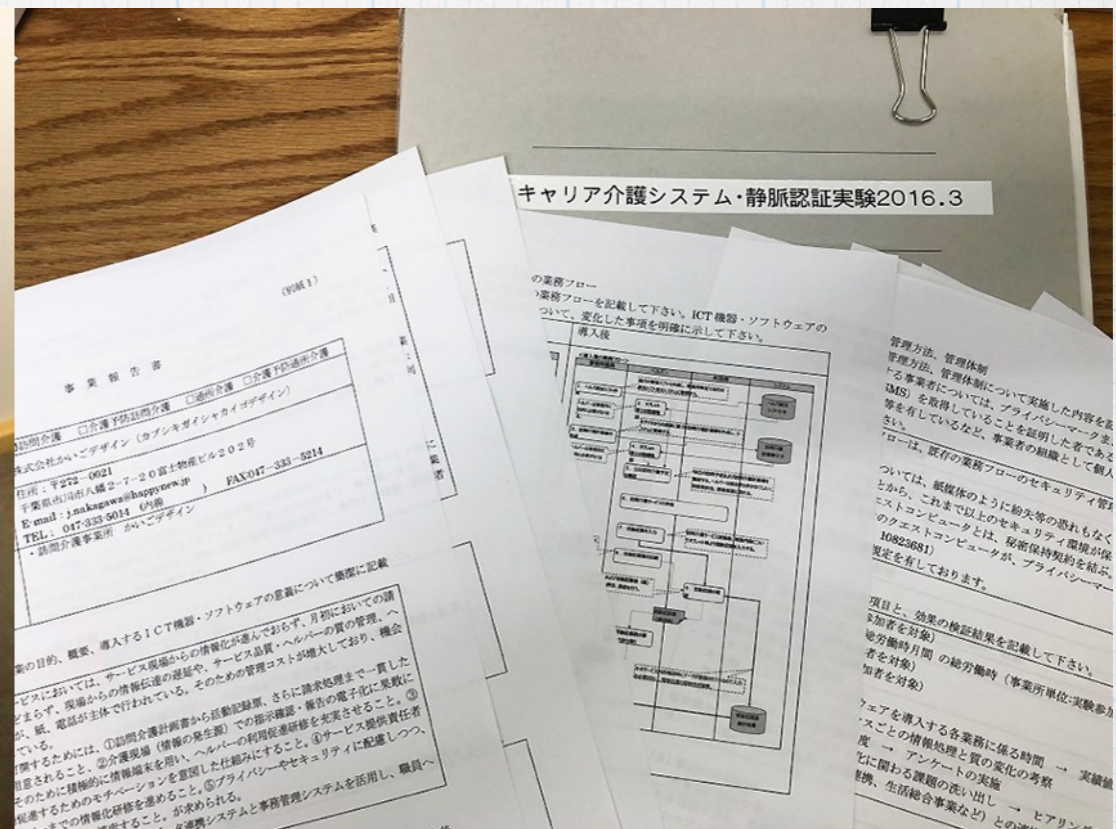
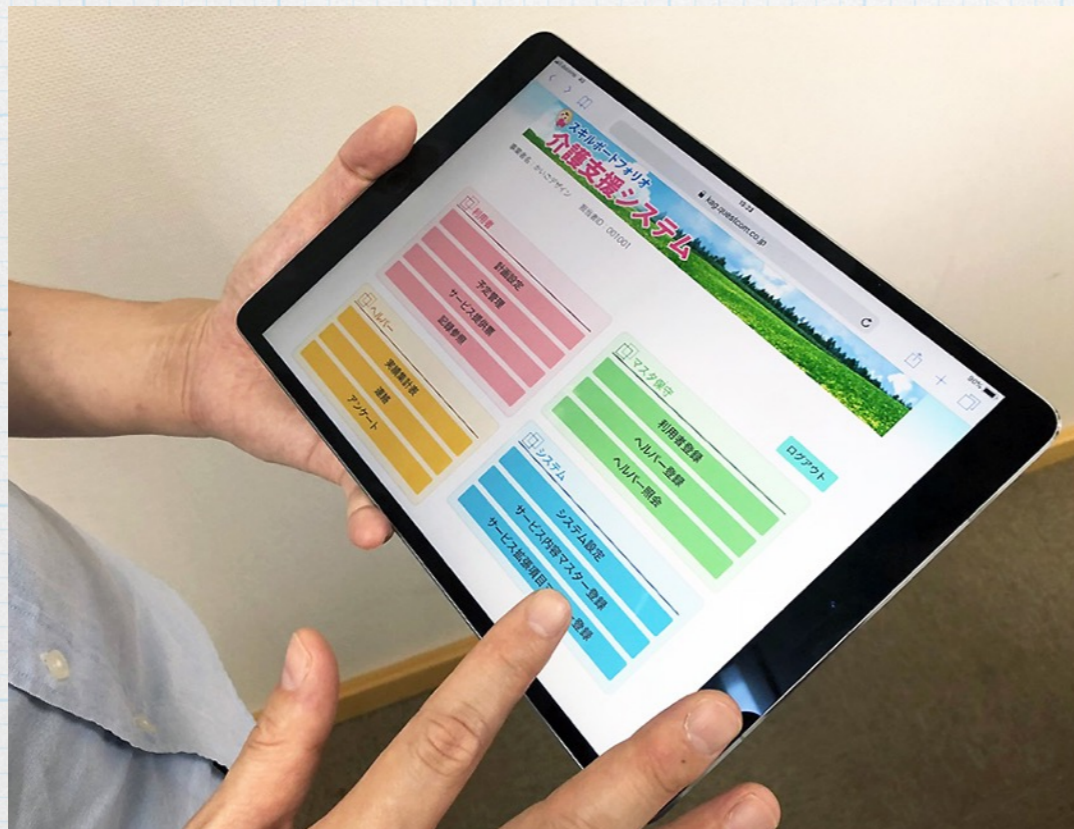
市川市で活動する、
いちかわライフネットワーククラブ内の研究会。
介護福祉士、ケアマネジャー、介護施設運営者、IT
アーキテクト、大学教授、起業家育成者、NPO代表な
どで、介護問題を研究する研究会。



< 厚生労働省の実証実験 >

ICT（紙を使わない記録）の効果を測定するために、平成28年に厚生労働省の実証実験にも参加。

『居宅サービス事業所における業務効率化促進モデル事業』



< 実証実験で分かったメリット >

- ◎ 記録の入力・請求作業の短縮が可能。
- ◎ 情報伝達がタイムリーに行える。
- ◎ ヘルパーのスキルが可視化できる。
- ◎ ヘルパーのイメージアップになりそう。



< 実証実験で分かった課題 >

- ▲介護現場でスマホやタブレットは、手がふさがるので不便。
- ▲スマホやタブレットを使っても、まだまだ記録の入力作業が面倒。
- ▲利用者の印鑑をもらうために印刷が必要。



< スマートウォッチの可能性 >



◎ スマートウォッチを使えば、

① 両手が使えらる。← リスク減

② 音声入力が可能。← さらに省力化

※ 印鑑や印刷の問題は、

手のひら静脈認証の技術で対応。

< スマートウォッチの実験をしてみても >

- ✓ 両手が使えるので安全に介護ができる。
- ✓ 記録が省力化され、より入居者様と関われる。
- ✓ ヘルパー同士の連絡がスムーズになる。



< スマートウォッチの実験をしてみても >

- ✓ 最先端！って感じがする。
- ✓ 上司や同僚から「格好良い！」と言われた。



ホーム長

副ホーム長



<私の目標>

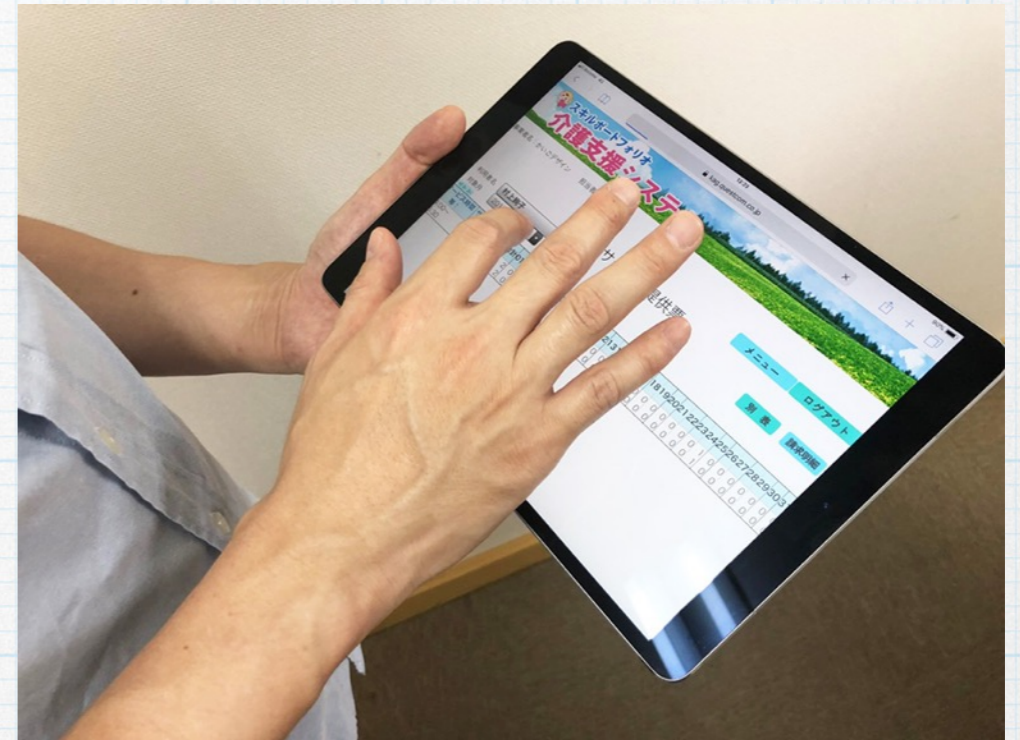
世界で一番ICTを

使いこなす

ヘルパー、

“スマートケアラー”

になります。



<最後に>

この春、
千葉商科大学の後輩が
新卒で入社しました！

ICTを活用した、
新しい介護の世界を
後輩たちと一緒に
つくっていききたいです。



平成30年3月
千葉商科大学 商経学部卒業
秋田康佑（あきたこうすけ）

ご清聴ありがとうございました。

